

第 50 回小山市バス交通整備検討委員会 議事要旨

■開催の概要

- 日 時：2020.01.16 14:00～16:00
- 会 場：保健・福祉センター 1階 旧たんぼぼ園
- 出席者：永井（委員長）、大平、高橋、山口、国分、片柳、関口（清家委員代理）、鈴木（谷委員代理）、岡野、大久保（以上、委員） 計10名
- 議 事：
 - （1）国庫補助事業に係る事業評価について
 - （2）小山中央観光バスの自主路線の運行について
 - （3）市民病院線の運行について
 - （4）羽川線の運行について
 - （5）やすらぎの森のアンケート集計結果について
 - （6）その他

□報告内容

- （1）マイナンバーカード所有者向け割引定期券（愛称：おーバス noroca）の販売状況について
- （2）アフターDCに向けた臨時バスの結果報告並びにR2年度の臨時バスの運行について
- （3）第9回おーバス絵画コンテストについて
- （4）小学生向け公共交通利活用促進副読本について
- （5）その他

■議事要旨

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 議 題

（1）国庫補助事業に係る事業評価について

資料1-1、資料1-2及び地域公共交通確保維持改善事業・事業評価に関する資料に基づいて事務局より説明があり、質疑応答の後、了承された。

- 昨年度まではコミュニティバスの定期調査として各路線バスの乗り込み調査を実施してきたが、今年度よりバス車両に搭載した機械による集計データを使用した分析を行っている。
- 路線型で運行されている路線では、利用者数は目標を達成した一方で、収支率については昨年度からアップしているものの、車両の大型化等により経費が増加したため目標は達成できなかった。
- デマンドバスでは、目標は達成できなかったものの、各エリアで利用者の増加が見られた。

[主な質疑応答]

（委員）

全路線バスの利用状況にて、主な変更点とはいつの段階での変更点か。

→（事務局）

昨年度の前回集計時と比較した、今年度における変更点である。

(委員)

(資料) 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価について、寒川・生井エリアのデマンドバスの稼働率は目標を下回っているが、事業評価として目標達成となっているのは誤りではないか。また、評価はBとなっているが、間違いはないか。

→ (事務局)

正しい評価に修正する。

(委員)

間々田東部・大谷中南部エリアについても、目標達成状況の評価はBではなくCではないか。

→ (事務局)

正しいものに修正する。

(委員)

デマンドバスの地域説明会について、利用促進に向けてどのような取り組みを行うのか。

→ (事務局)

広報などの工夫によって、認知度の向上を図っていきたいと考えている。

(委員)

路線型バスの中で事業評価の記載があるのは城東中久喜線、大谷中央線、土塔平成通り線、間々田東西線のみ、またデマンドバス型の西部地区では寒川・生井エリアのみだが、これ以外の路線は補助対象ではないということか。

→ (事務局)

その通りだ。豊田、中・穂積地区のデマンドバスについては、需要が少ないため除外された。またそれに伴って、思川駅線、道の駅線も除外されている。

(委員)

資料1-1について、定量的な目標・効果の欄でデマンドバス全エリア分のデータはないのか。

→ (事務局)

加筆する。

(委員)

全路線バスの利用状況で、最近の主な変更点として「大型化によって収支率が低下した」と表記されている路線の中には、収支率が上がっているものもあるがなぜか。

→ (事務局)

高岳線など車両導入費の支払いが完了している路線は影響がないためだ。

(委員)

大型化した路線について、支払いが残っているのか完了したのかを明記して頂きたい。

→ (事務局)

了解した。

(2) 小山中央観光バスの自主路線の運行について

資料2に基づいて事務局より説明があり、質疑応答の後、了承された。

○おやまゆうえんハーヴェストウォークを運営している(株)ザイマックスアルファと、(株)小山中央観光バスより、小山駅～同施設間で運行している無料シャトルバスを路線化し、(株)小山中央観光バス自主運行の乗合バス(仮称:ハーヴェストウォーク線)として運行する提案があった。

・運行時間: 7時30分～22時30分

・運行便数: 平日2本/時、休日3本/時

・停留所: 市民病院線の若木町循環ルートの停留所を踏襲する

・運賃: おーバス運賃に準ずる。ただし、ハーヴェストウォークからの要望で、従来のシャトルバスで料金無料としていたハーヴェストウォーク乗降客のうち、学生(中学生～大学生)については、学生証提示の上無料で利用できるものとする。

・その他: おーバス他路線との乗り継ぎ割引や回数券、norocaは使用可とする

○令和2年4月1日の運行開始を検討している。

○運行開始にあたり、経路が重複する市民病院線若木町循環ルートは廃止する。

[主な質疑応答]

(委員)

ハーヴェストウォーク線について、市はどのような形で関わるのか。

→ (事務局)

路線自体は(株)ザイマックスアルファと(株)中央観光バスで運行する。形態としては、関東自動車運行路線と同様だ。運行経費は(株)ザイマックスアルファが負担し、市からは車両購入費の補助(1/2にあたる年間400万円×5年)の要望を受けている。この負担については、市民病院線若木町循環ルートの経費がほぼ同額なので、大きな負担にはならない。

(委員)

若木町循環ルートの廃止によって利用できなくなる停留所はあるのか。

→ (事務局)

重複区間については若木町循環と同様の停留所に停車するので問題ない。

(委員)

若木町循環ルートの経費が400万円というのは、収入も含めての金額か。

→ (事務局)

純粋な経費である。

(委員)

どのような経緯で車両購入費を補助することとなったのか。

→ (事務局)

路線化に際して、公共交通として長期的に継続できない可能性があるため、対応策の一環として補助を行うこととなった。

(委員)

現行の若木町循環ルートと比較して、便数は変わるのか。また、車両の維持費などどこが負担するのか。

→ (事務局)

平日は4便から56便に、休日は2便から70便に増便となる。ただし、車両は現行よりも定員数の多い車両を使用するので、定員は一定数を見込める。車両の保守費用等は(株)ザイマックスアルファが負担する。

(委員)

資料にある時刻での運行となった経緯や、若木町循環ルートで廃止となる停留所のフォローについて伺いたい。

→ (事務局)

始発便は小山高校生の通学、最終便はハーヴェストウォークの従業員輸送を担う。また、従来の便を利用する乗客についてはフォローできると考えている。

(委員)

市民病院線を運行する友井タクシー(有)はどのように考えているのか。

→ (事務局)

概ね了承を頂いている。

(委員)

公募などの手順を踏まずに事業者を決定するのは問題ないか。

(委員)

友井タクシー(有)、(株)小山中央観光バスの了承が得られているのであれば問題ないだろう。ただし今後、今回のケースの様に一先ずバスを運行して後からおーバスに編入するという方法を意図的に取る事業者が出ないように、しっかりと整理しておくべきだ。

→ (事務局)

了解した。運行事業者については、元々(株) ザイマックスアルファと(株) 中央観光バス間で提携して運行している路線であるため、他の事業者では難しいだろう。

(委員)

(株) 中央観光バスの自主運行路線となると、運賃等はおーバスと共通化できないのではないか。一度持ち帰って、制度を確認したい。

(委員)

同じ自主運行路線でも、関東バスとは全く違う協定になるだろう。定期券や乗り継ぎ券は共通化するのか。

→ (事務局)

共通化を図る予定だ。今回の契約については、過去に大山タクシー(有)が運行している学校循環線に関する事例を参考にしている。

(委員)

路線化の手続きなど、必要な申請を済ませた上で公共交通会議に提示頂きたい。

→ (事務局)

了解した。

(3) 市民病院線の運行について

資料3に基づいて事務局より説明があり、質疑応答の後、了承された。

○現在沿線にて分譲が進められている神鳥谷ビレッジ(旧 KDDI 社宅)にて沿線居住者の利用が見込まれることから、現行の市民病院線を、神鳥谷ビレッジ内を経由するルートに変更し、居住者向けに3箇所の停留所を新設するダイヤ改正を4月1日に実施する。

○ルート変更にあたって、神鳥谷ビレッジ内の交差点では現行の車両が走行できないことから、小回りのきく34人乗りの車両に変更する。

○併せて、神鳥谷ビレッジ居住者の通勤需要を見込んで、同線の運行時間帯を6時30分～21時00分まで拡大し、便数も8往復(休日6往復)から13往復に増便する。

○また同改正では、ハーヴェストウォーク線(仮称)の開業により若木町循環ルートを廃止し、路線名を「新市民病院線」に変更する。

[主な質疑応答]

(委員)

改正後の車両はどのように調達するのか、また、既存の車両はその後どう運用するのか。

→ (事務局)

改正後の車両は中古車両を新規で購入する。既存の車両については羽川線で使用し、同線の車両大型化を図る。

(委員)

神鳥谷ビレッジ内には停留所を設置するのか。

→ (事務局)

敷地内に2箇所設置する。設置箇所は神鳥谷ビレッジにて協議中だ。

(4) 羽川線の運行について

資料4に基づいて事務局より説明があり、特に質疑応答はなく了承された。

○羽川線で生じている慢性的な混雑を受けて、4月1日より車両の大型化を実施する。

○現行は27人乗りの車両を使用しているが、市民病院線の車両変更により生じる余剰車(54人乗り)を転用して使用する。

(5) やすらぎの森のアンケート集計結果について

資料5に基づいて事務局より説明があり、質疑応答の後、了承された。

- やすらぎの森への路線バス臨時便の運行を検討するにあたり、やすらぎの森利用者を対象にアンケート調査を行った。
- アンケートの結果、採算面で路線バスの運行は現実的ではないと判断し、運行は見送ることとした。
- 今後は、デマンドバス利用でも墓参りが出来るというPRを積極的に実施する。

[主な質疑応答]

(委員)

デマンドバスは休日運休だが、祝日に利用できるということをPRするのか。

→ (事務局)

平日及び祝日にはなるが、エリア外の方がイオンモール小山前からやすらぎの森へ利用できる認識があまりないようなので、その点の認知を高めたい。

4. 報告事項

資料に基づいて事務局より以下の説明があった。

(1) マイナンバーカード所有者向け割引定期券（愛称：おーバス noroca）の販売状況について

- 小山市のマイナンバーカードの利用促進を兼ねて発行を開始した割引定期券（おーバス noroca）は、累計で113枚（令和元年12月末時点）を販売し、12月単月では通常定期券の販売枚数（30枚）を上回る48枚を販売している。
- 令和2年1月15日時点では更に枚数を伸ばし、累計販売枚数は147枚に至っている。

(2) アフターDCに向けた臨時バスの結果報告並びにR2年度の臨時バスの運行について

- ① 栃木ゴールデンブレース試合日における城東中久喜線の臨時便
 - 令和元年度では41日間で413名の利用があり、これを受けて令和2年度も引き続き運行する。
 - 小山駅東口発は、試合開始時間の2時間前、1時間前に1本ずつ運行、復路は試合開始時間の2時間半後、3時間半後に1本ずつ運行する。
- ② 栃木デスティネーションキャンペーンに合わせた道の駅線の臨時便
 - 利用者数の推移を見ると、H30年に見られた便数の減少による影響は令和元年には回復しているほか、いちごの里への利用客は5月の連休までが特に多い。また、臨時便を運行していないにも関わらず12月～3月も多くなっている。
 - これらの実績を踏まえて、令和2年度は5月の連休まで臨時便を運行する。また、予算残額により冬期（12月～3月）の運行も検討する。

(3) 第9回 おーバス絵画コンテストについて

- 幼児・小学生合わせて、昨年度を上回る866点の作品の応募があった。
- 11月23日、24日に道の駅思川で行った展示会では、2日間で396名の来場があった。
- 入賞作品は、1月10日までイオンモール小山2Fのフードコートで展示した。

(4) 小学生向け公共交通利活用促進副読本について

- 現在、県内の小学校2年生に公共交通副読本を配布しており、おーバスの無料券を添付しているが、無料券の対象を拡大する。
- 現行では配布した年度の小学2年生、大人1人につき子ども1人分の運賃を無料としたが、改正案では配布した年度の小学生全学年が対象となるほか、大人1人につき子どもが2人まで無料になる。

[主な質疑応答]

(委員)

おーバス noroca について、noroca を紛失した場合などに再発行が出来るようにはならないか。既に紛失した利用者があるとも聞いているので、対策が必要だ。

→ (事務局)

電子化など改良を加えなければ難しいだろう。他社では定期券をアプリ化する試みもあるので、来年度以降に改良を検討したい。

(委員)

路線バス臨時便の運行について、今後DCのような新たなイベントが市内で行われる場合、臨時便の運行についてどのように対応するのか整理すべきではないか。

→ (事務局)

ゴールデンブレースの試合観戦輸送については、小山市を本拠地とする県民球団の取組みであり、いちごの里についても利用者が多く、観光の後押しになるのであるべく継続していきたい。また、それ以外のイベントに対応出来る様な基準の設定も今後検討する。

(委員)

バスの案内にローマ字表記やふりがながあった方が良いと思うが、検討できないか。

→ (事務局)

次回ダイヤ改正時に導入したい。

(以 上)